

メルマガ 「いいテク・ニュース」 季語に遊ぶ 2018年3月28日 (Vol.146) 「春の妖精たち」

「春の妖精たち」

早春、雪どけを待ちかねたように地面から芽を出し、大きな樹木が葉を広げる前に太陽の光を利用してつぎつぎと花を咲かせ、夏まで葉つけ、実を結び養分を蓄えると地上から姿を消し、来年の春までは地下茎や球根となって、土の中で過ごす植物たち。

このような植物たちをSpring ephemeral (スプリング・エフェメラル) と言い、直訳すると「春のはかないもの」という意味で「春の妖精」とも呼ばれます。

今回は福寿草、片栗の花、節分草など「春の妖精」と呼ばれる植物たちと彼女たちを詠んだ句を紹介します。

1. 福寿草 (ふくじゅそう)

<新年の季語>

キンポウゲ科の多年草で雪どけとともに落葉林の下などに咲き出します。

江戸時代より観賞用として栽培され、園芸種が多く作り出されました。

黄金色の花とともに名前をめださから正月の花とされるようになり、実南天 (みなんてん) や藪柑子 (やぶこうじ) などと寄せ植えした鉢物も売られています。

野生のものは早春から4～5月頃開花し、黄色い花が咲くさまは見る人に希望を与えてくれます。

朝日さす弓師が店や福寿草
与謝蕪村(よさ ぶそん) (1716-1784)



2. 節分草 (せつぶんそう)

<初春の季語>

山地や木陰などに自生するキンポウゲ科の多年草で、節分の頃に開花するところから名づけられました。

2月～3月ころに地下深く隠していた球根から花茎を出し、2～8ミリほどの白色の愛らしい花をつけます。

草丈は5～10センチ、花卉に見えるものは萼片（がくへん）で、花そのものは目立ちません。

咲くだけの光あつめて節分草

高橋悦男（たかはし えつお）（1934-）



3. 片栗の花（かたくりのはな）

<初春の季語>

山林の半日陰、斜面に群生する多年草。

早春、地下の鱗茎から10センチほどの花茎を伸ばし、薄紫から桃色の花を一つ下向きにつけます。

花びらは6枚で開くと反り返ります。

山林などにうつむいて咲く姿は印象的です。

若葉は浸し物や和え物にし、鱗茎からは良質の澱粉が取れます。

蜜を求めてギフチョウが訪れる花としても知られています。

ギフチョウやウスバアゲハなど春先のみ成虫が出現する昆虫のこともスプリング・エフェメラルと呼ぶこともあります。

また、片栗や福寿草などの種子の端には、蟻をひきつけるエライオソームという付着物があり、脂肪酸や炭化水素（油の一種）が多量に含まれています。

そのため、多くの種子が蟻の巣に運ばれ、エライオソームのみを食べ、種子は捨てられ、これによって「春の妖精たち」の子孫を増やすことができます。

片栗の花に離れて牛繋ぐ（繋ぐ=つなぐ）

太田土男（おおた つちお）（1937-）



4. 甘菜 (あまな)

< 仲春の季語 >

日当たりのよい平地の草原に生えるユリ科の多年草。
春先、地下の鱗茎から細い線状の柔らかい葉を出し、その間から 10 ～ 30 センチほどの茎を伸ばします。

4 月頃、茎の先端に上向きに白い花をつけます。
花びらは 6 枚で白地に暗紫色の細い筋があります。
甘菜の名は鱗茎に苦味がなく、少し甘いため。

甘菜掘る草野球から目を逸らし (逸らし=そらし)
守屋明俊(もりや あきとし) (1950-)



作者 コンピュータが読み取れる情報は提供されていませんが、Keisotyo だと推定されます（著作権の主張に基づく） [GFDL (<http://www.gnu.org/copyleft/fdl.html>) または CC-BY-SA-3.0 (<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>)], ウィキメディア・コモンズ経由で https://commons.wikimedia.org/wiki/File%3AAmana_edulis_Amana01.jpg

5. 一輪草 (いちりんそう)

<晩春の季語>

キンポウゲ科の多年草。

本州、四国、九州の山麓、川のほとり、沼のそばなどの肥沃な腐食土によく生えています。

茎を一本だけ出し、そこに一輪の花をつけることから名づけられました。

4～5月頃に高さ20センチ前後の茎の先に4センチほどの梅の花に似た白い花をつけます。

裏紅一花（うらべにいちげ）の別名がありますが、花弁に見える萼片の裏側が淡い紅色を帯びるところから名がつけました。

どことなく寂しさを感じさせる花です。

道なき谿一輪草の寂しさよ（谿＝たに）

加藤知世子(かとう ちよこ) (1909-1986)



作者 Qwert1234 (Qwert1234's file) [CC BY-SA 3.0 (<https://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>)], ウィキメディア・コモンズ経由で https://commons.wikimedia.org/wiki/File%3AAnemone_nikoensis_5.JPG

6. 二輪草（にりんそう）

<晩春の季語>

キンポウゲ科の多年草。

名前のおり一輪草の仲間ですが、丈は10センチほどにしかありません。

3～4月に、全国の山地や林などの湿った土地に咲きます。

二輪の花をつけるのでこの名がありますが、実際は一輪のことも三～五輪つけることもあります。地面を覆いつくすように群生するところが一輪草と違うところです。

片雲やこぼしてゆきし二輪草

矢島渚男(やじま なぎさお) (1935-)



7. 猩々袴（しょうじょうばかま）

<晩春の季語>

ユリ科の多年草。

沖縄以外の全国の山地でやや多湿なところに生え、人里近くの畦道から高山帯の湿原まで分布しています。

葉は常緑で地面に接し重なり合うように出て、ロゼット状に広がります。

花茎はその中から出て、高さ10～20センチとなり、先端に横向きに数個から15個ほどの花が付きます。

花期は低地では3～4月頃、高山では雪渓が溶けた後の6～7月頃になります。

花の色は生育場所によって、淡紅色、紫色、白色と変化に富んでいます。

花を猩々（中国の想像上の怪獣）の赤い顔に、地面に広がる葉を袴にたとえて、この名がつけられました。

序の舞の猩々袴尾瀬ヶ原
堀口星眠(ほりぐち せいみん) (1923-2015)



作者 Qwert1234 (Qwert1234's file) [GFDL (<http://www.gnu.org/copyleft/fdl.html>) または
CC BY-SA 4.0-3.0-2.5-2.0-1.0 (<https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0-3.0-2.5-2.0-1.0>)], ウィキメディア・コモンズ経由で
https://commons.wikimedia.org/wiki/File%3AHeloniopsis_orientalis_3.JPG

8. 華鬘草 (けまんそう)

<晩春の季語>

中国原産で室町時代に渡来したケシ科の多年草。
花の形が仏殿の欄間（らんま）にかける飾りの華鬘に似ているためこの名がつけました。
高さ 30 ～ 60 センチ。
葉は 5 センチ前後で牡丹の葉に似ていることから華鬘牡丹の名もあります。
また、いくつも垂れて咲く花を鯛釣りに見たて鯛釣草の名も。
陽春に咲く花は紅色で美しいが毒草です。

姥捨の山みち陰し華鬘草 (姥捨＝うばすて)
高木良多(たかぎ りょうた) (1923-2017)



写真提供:ピクスタ
jujin / PIXTA(ピクスタ)

私も詠んでみました。

地蔵坂花かたくりも頭垂れ（頭垂れ＝こうべたれ）
白井芳雄

今回は春早く芽を出し、つぎつぎと花を咲かせ、まるで「春の妖精」のように姿を消してしまう花たちの紹介と彼女たちを詠んだ俳句をお届けしました。
お楽しみいただけましたでしょうか？

全体を通じての参考文献、出典：奥山多恵子

『春の妖精たち スプリング・エフェメラル』（福音館書店）
ISBN978-4-8340-2488-3

飯田龍太・稲畑汀子・金子兜太・沢木欣一監修
『カラー版 新日本大歳時記 愛蔵版』（講談社）
ISBN978-4-06-128972-7

『角川俳句大歳時記 新年』（角川学芸出版）
ISBN4-04-621035-4 C0392

『角川俳句大歳時記 春』（角川学芸出版）
ISBN4-04-621031-1 C0392

白井明大・有賀一広
『日本の七十二候を楽しむー旧暦のある暮らしー』（東邦出版）
ISBN978-4-8094-1011-6 C0076

参考サイト：フリー百科事典ウィキペディア (Wikipedia)

最後までお読みいただきありがとうございました。

(株)技術情報センター メルマガ担当 白井芳雄

本メールマガジンのご感想や本メールマガジンへのご意見・ご要望等 melmaga@tic-co.com まで、
どしどしお寄せ下さい。

株式会社 技術情報センター 〒 530-0038 大阪市北区紅梅町 2-18 南森町共同ビル 3 F
TEL : 06-6358-0141 FAX : 06-6358-0134 E-mail : info@tic-co.com